

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 呉山 翔城

所属 (School) 現代システム 環境システム学類

学年 (Grade) 3年

留学先 (Name of overseas institution)

ヴッパータール大学

留学期間 (study abroad period)

2018年4月～2019年3月 (2学期間)

留学レポート Study Abroad Report



私は、2018年度の一年間ドイツのヴッパータール大学に交換留学しました。

大学入学時に第二外国語としてドイツ語を履修しました。NHKの語学番組を参考にしながら、フランス語や中国語などの他言語と比較して、ドイツ語の迫力ある発音や機能的な文法が気に入ったからです。学習を進めていく中で、もっとドイツ語を集中的に勉強したいという思いが強くなり、府立大学の交換留学制度を利用してヴッパータール大学に留学することを決めました。

←モノレールで有名なヴッパータール

留学中一年間、外国人留学生のために開講される集中ドイツ語コースを受けていました。クラスはレベルごとに分かれており、毎日午前中3時間ドイツ語を学んでいました。バランスがとてもよく、読解、聴解、作文、文法をまんべんなく学ぶことができました。

特に感心したのが、授業中の文法や読解のときでさえ、先生が近くの人と相談して取り組むように促していたことでした。これによって、一人当たりの会話量が少なくなってしまうがちな集団型の弱点を補っていたのだと思います。

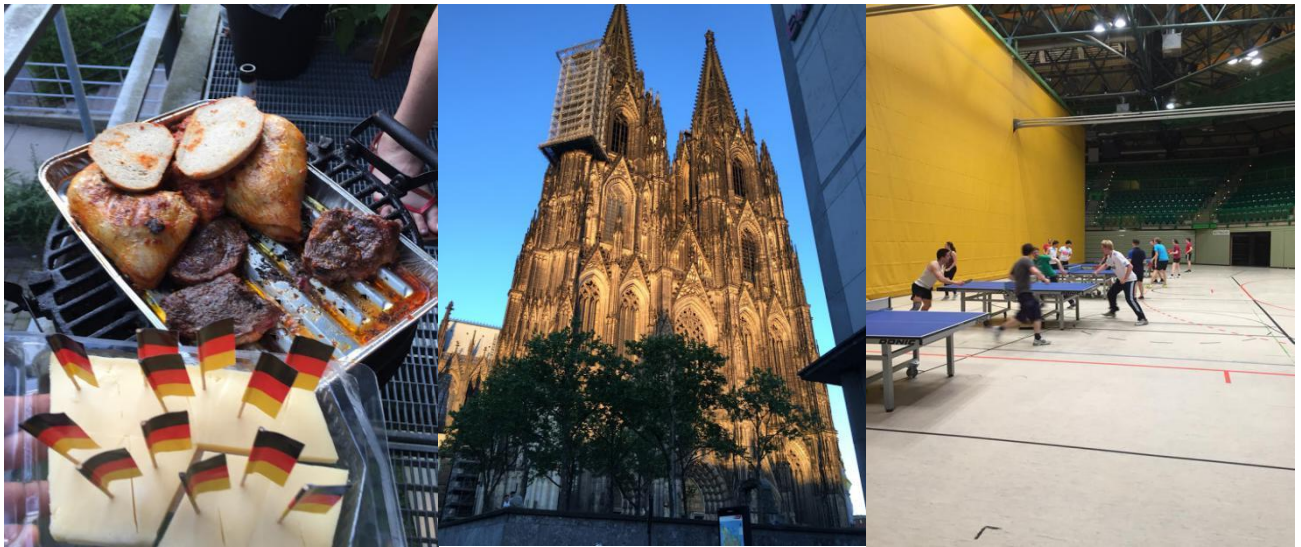
また世界各国からの学生の授業の受け方を観察するのもおもしろかったです。中東や欧米の学生の多くは文法は苦手だが、よくしゃべるという印象でした。「文法をやってから話せるようになる」のではなく「話せるようになってから文法をやる」という、根本的に違う考え方なのかもしれません。留学当初、自分の学習型は前者でしたが、彼らの影響を受けて「文法と会話を同時並行する」という自分に合ったスタイルにたどり着きました。間違いを恐れることも少なくなりました。

とはいえ、最初はかなり授業に苦戦しました。日本で主に文法を学んでいたのですが、圧倒的に話す量と聞く量が足りていなかったのです。そこで、放課後は日本語を学んでいるドイツ人と言語交換（タンデムと言います）を積極的に行っていました。このおかげで、授業では学べないような口語的な表現を学べました。

さらに他の留学生の友人たちと毎日一緒にドイツ語で話しながら食堂で食べ、放課後はドイツ語で話しながら買い物をし、週末はドイツ語で話しながらビールを飲んでいました。私の身の回りの環境と人すべてがドイツ語の先生でした。

大学のスポーツコースでハンドボールをした後、ビール片手に交流→





このような素晴らしい先生、友達のおかげ、そして自身の努力の甲斐もあって、2018年の12月にドイツ語のDSHという試験に合格することができました。私が獲得したのはDSH 2というもので、ドイツ語検定1級（C1レベル）に相当します。これでドイツの大学に正規留学するのに必要なドイツ語力の条件をクリアできます。府立大学を卒業後、私はこの資格を使ってドイツの大学院で専門である心理学の修士号を取ろうと考えています。留学当初はただ好きなドイツ語を学ぶことが目的でしたが、今は「身に着けたドイツ語を活かす機会」が目の前に広がっています。ドイツ語学習に意欲ある方は、このように交換留学を今後のドイツ生活のステップにすることも検討してはいかがでしょうか。

ドイツは私にとって第二の故郷と言えるほど、大好きな国になりました。様々な文化背景を持った人がいて本当に興味深いですし、住みやすく生活で不便さを感じることもありません。現地の言葉も覚え、大切な友達もたくさんできたので、是非ともまた戻ってきたいです。当面はドイツの大学院に入ることを目標にしていますが、旅行でも、ワーホリでもインターンでも必ず何らかの形で戻ってきます

